

児童クラブだより

第 93 号

2018年12月14日



特集!

# けんかをすることも 大事なこと!?

みなさんは「けんか」というどのようなイメージを持たれますか?多くの方は「子どもがけんかをした」と聞くと「うちの子は大丈夫?」「相手の子はケガをしていないだろうか」といった心配や、または「けんかをするなんて」「何をやっているの!」といった不安を感じたりすることもあるのではないのでしょうか。

「けんか」はしない方がいいのかもしれません。しかし、「けんか」をせずに、なんでも自分の思い通りに過ごせていたり、自分の思いを伝えられない環境で育っていたら、果たして社会でたくましく生きる力や豊かな心は育つのでしょうか。

本号では、保護者としては少し心配になる「けんか」について特集します。



どうして「けんか」がおきるのかしら？



# 子どもたち「育ち」の中のけんか

## 「けんか」がおきるわけ

子どもは成長するにつれ、人・物などに強い興味や関心がわいてきます。「○○がほしい」「○○をやりたい!」「もっと自分を見てほしい」子どもが自分の気持ちを通そうとすることはよくあることです。その場にいるのが自分1人であれば、欲求のままにできることも、相手がいることで物の取り合いや順番待ちなどで「けんか」が起きます。発達の中で自我が育ち、他者との交渉・調整がうまくいかない子どもは、些細なことであっても「けんか」になることがあります。「けんか」は裏を返せば、子どもの成長の証拠でもあり、自分と他者の思いと思いのぶつかり合いが「けんか」となるのです。

## 相手の思いを知ること

子どもたちはたくさんの人に囲まれ、集団生活をする中で「けんか」をすることがあります。けんかは思いと思いのぶつかりあいで生まれます。その中で自分にも抑えきれない思いや感情があるように、相手にも「どうしても分かってもらいたい」という感情や理屈があるということに子どもたちは気づいていきます。ぶつかりあうからこそ、他者と向き合い、他者の思いを知ることができるのです。子ども時代にけんかをすることで、相手と向き合い、相手にも思いがあるということに気づくことができます。それはやがて思いやりの気持ちを育むことにもつながっていきます。

## 仲直りから...

子どもたちは「けんか」をしていても、その後は何もなかったかのように仲直りをして遊んでいることがあります。けんかをして傷ついたり、悲しい思いをすることがあっても、そこからまた一緒に遊んだり、ふとしたきっかけで笑いあったりすることで仲直りすることがあります。けんかをしてぶつかりあった友だちとまた仲直りができるということは、素の自分を出しても受け入れてくれる人がいるという安心感や、やり直せるという次につながる気持ちを育んでくれる体験にもなります。

## 自分の言葉で伝える

「けんか」は自分の言葉で自分の思い・考えを他者に伝える大切な機会にもなります。思いを言葉で伝えることで、自分の「好き・嫌い」「許せること・許せないこと」といった人となりを相手に伝え、理解してもらおうとします。そうしてぶつかった相手と仲直りができた時、思いきって感情をぶつけたことで自分を知ってもらえるきっかけとなる経験が、人間関係を一歩先に進められたという自信につながっていきます。



## 「けんか」へのかかわり

「けんか」と「いじめ」は違います。児童クラブの生活の中で子どもたちのぶつかりあいとなるけんかが起きた時、指導員は子どもたちの感情に寄り添いながら、双方の気持ちを整理し、子どもたち自身がけんかに決着がつけられるように関わります。その中で気をつけていることは、相手に継続して苦痛を与えるようないじめではないかということです。けんかをした時にその子の成長のきっかけとなる関わりをすることはもちろん、それがいじめになっていないのかも見極め、関わっていきます。



# 北Ⅰ・Ⅱ 児童クラブ交流会が おこなわれました

参加人数 北Ⅰ1,423人 北Ⅱ1,551人



11月3日(土・祝)4日(日)に、秋葉台文化体育館で、「北Ⅰ・北Ⅱ児童クラブ交流会」が開催されました。両日で、総勢2,974名の児童、保護者が集まりました。

大玉おくりや障害物競走などの競技には、児童とともに、保護者や運営委員のみなさんが参加してくださり盛り上がりました。リズムけん玉とリズム体操は、子どもたちが練習してきた成果がみられ、迫力がありました。

今年の児童クラブ交流会も、各クラブから選出された保護者実行委員の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。



南Ⅰ・Ⅱ児童クラブ交流会は、12月22日(土)23日(日)に、秩父宮記念体育館でおこなわれます。どうぞお楽しみに。



## みらぞう君が児童クラブにやってきました! ③

～手あらいうがいの巻～

～かめの子児童クラブ(亀井野小学校区)～

レッツゴー!



学校から元気に帰ってきたお友だち。「おかえり!」

今回、みらぞうが訪れたのは亀井野小学校区にある「かめの子児童クラブ」。クラブの子どもたちは、学校から帰ってきてランドセルをロッカーに入れると、すぐに手あらいうがいをします。手を洗うことを忘れて、宿題に取りかかっているお友だちがいると、「手あらいを忘れてるよ!」と、自然に声をかけあっていました。



ランドセルを置くと、次々に手洗い場にやってくるよ。

子どもたちは「手は汚いから」「バイキンがついているから」「風邪の予防のため」など、手あらいうがいをする理由や大切さをみらぞうに教えてくれました。

おやつを食べる前にも、そして外遊びの後にも、子どもたちは、必ず手あらいうがいをします。こうやって、子どもたちは自分の健康を守っているのだなあと、みらぞうは感心しました。

「大切なことを教えてくれたかめの子のみんな、ありがとう!」「これを読んでもみんなも、手あらいうがいをして、毎日を元気にすごしてね!」



ハンカチで手をきれいに拭くことも大切だね!



手あらいうがいをしたら、美味しいおやつ時間♪

けん玉パフォーマンスグループ

ず～まだんけ

ZOOMADANKEが  
やってきた!



かもめ児童クラブ  
つばめ児童クラブ  
チンチロ児童クラブ  
かわせみ児童クラブ



「藤沢の児童クラブでは、けん玉がとても盛ん！」ということで夏休みに4児童クラブの保護者会共催「ZOOMADANKEけん玉ショー&ワークショップ」を企画・開催していただき当日参加した、200人余りの子どもたちは、驚くような神技のけん玉パフォーマンスを目の当たりました。その後フロアで、ず～まだんけのコダマンさんとイージーさんの2人からけん玉の技のコツを教えてくださいました。質問コーナーでは「いつからけん玉を始めたのですか？」の問いに、イージーさんから「学童保育に通っていてやり始めました」との答え。最後に児童クラブのリズムけん玉を披露したのですが、「この人数でのリズムけん玉は初めて見たので感動しました！」との感想をいただきました。けん玉ショー&ワークショップがきっかけとなり、子どもたちのけん玉熱もヒートアップ! 毎日楽しく一生懸命に練習に励むけん玉の音が響いています。

◆プロフィール◆

けん玉パフォーマンスコンビ『ZOOMADANKE(ず～まだんけ)』2010年に結成。“けん玉のイメージ”を変えるをモットーに日々「けん玉」の新しい楽しみ方を研究。けん玉教室やパフォーマンスショーはじめ国内外のイベントで活躍、けん玉の普及活動にも積極的に力を注いでいる。



「本」大好き!

児童クラブ図書館利用について



藤沢市による「子どもの施設・団体と市民図書館連携事業」の一環で、児童クラブでは市民図書館や市民センター内図書室の利用を行っています。いつもクラブ室にある本とは違い、その時の季節を感じる本や、子どもたちの間で関心が高いシリーズの本など、借りてきた本は子どもたちに人気で楽しみとなっているようです。本を通じ子どもたちの興味や新しい世界との出会いになる機会を大切にしていきます。

報告

運営委員長会議  
保護者代表者会議

11月10日(土)に藤沢青少年会館にて今年度2回目の運営委員長会議と保護者代表者会議が開催されました。財団より上半期の事業報告と下半期の事業予定の報告が行われたほか、情報交換と意見交換が行われました。



公益財団法人

藤沢市みらい創造財団

〒251-0054

藤沢市朝日町10-8 藤沢青少年会館内  
放課後児童育成課

TEL 0466-21-6709

FAX 0466-28-0009

URL <https://www.f-mirai.jp>

E-mail [jidouclub@f-mirai.jp](mailto:jidouclub@f-mirai.jp)

